

町小だより

令和8年
4月24日
No. 707
御免町小学校

予測が困難な未来を生き抜く「力」を付けるために

校長 土田 利康

雪国の城下町に春が満ちてきました。冬の名残を留める飯豊の白さを背に、柔らかな陽射しが町を包みます。田んぼでは5月初旬頃の田植えを目指し、トラクターでの田おこしが始まりました。足元にはつくしが、見上げればツバメがと、季節の移ろいの確かさを感じさせてくれます。

新しい学年を迎え、子どもたちの表情には期待と少しの緊張が入り混じっています。この一人一人が春の風景のように、ゆっくりと、しかし確かに成長していくことを願わずにはいられません。学校は、子どもたちが安心して学び、自分らしさを伸ばしながら、未来を生き抜く「力」を付けていく場でなければなりません。そのためには、学校だけではなく、家庭や地域とのつながりが欠かせません。朝のあいさつや通学路での見守り、地域の行事や季節の営みの中で、子どもたちは多くのことを学び、心を育てていきます。田んぼに水が満ち、苗が根を張るように、子どもたちもまた、様々な関わりの中で力強く育っていきます。その土台となるのが、家庭での温かな言葉掛けや、地域の皆さんの優しいまなざしです。引き続きの子どもたちとの関わりをお願いします。

さて、4月8日に行われた入学式において、1年生の保護者の皆さんに、次のような話をしました。

「今日から義務教育が始まります。小学校、中学校の9年間で子どもたちは、予測が困難な未来を生きる力を、身に付けていかなければなりません。予測が困難だと聞くと、少々不安な気持ちになってしまうことでしょう。

しかし、心配するのではなく、予測が困難ということは、それだけ夢や可能性が広がる喜ぶべきこととして、捉えていただきたいと思います。『昔はよかった』と耳にすることがありますが、本当でしょうか。パソコンやスマホ、コンビニなどがない時代に戻るのが、果たして幸せなのでしょうか。

学校では、どんな未来が来ようとも、子どもたちがしっかりと生き抜く『力』を育てていきます。この力は、体験をとおして子ども自身が考え、判断し、実行していくことでしか身に付きません。時間も掛かります。ですから学校教育だけでなく、家庭教育の中でも、『自分で考える』『自分で決める』『そしてやってみる』という機会を設けていただきたいと思います。成功より失敗する数の方が多いと思います。どうか子どもの力を信じ、子どもに任せることを増やしてあげてください。御家庭での、御支援と御協力をお願いします。」

子どもたちが、予測が困難な未来を生き抜く「力」を付けていくためには、いかなる時も保護者と地域と学校とが知恵を出し合い、手を携え合っていくことが大切です。1年間よろしくをお願いします。

